

ゆりかご 園だより

2020.11.1

3期(10~12月)のねらい
手を使ってつくりだす活動を中心に園生活を豊かにしよう



ある日、バスに乗った時のことです。
後方に座っていた3組の親子たちの
楽しそうなやりとりが聞こえてきました。
子どもたちはみな小学校低学年と

思われます。終点までの時間を楽しく過ごそうとしたようで、クイズの出し合い
が始まりました。クイズを出すのは子どもたち、答えるのは大人たちでした。
子ども目線のクイズが途切れることなく出され、よく次々と思いつくなあ、子ども
も、すごいなあと感じ。そのうちしばらくすると一人の男の子が「うーん！」と
大きく伸びをしたのです。静かな車内にひととき大きな声が聞こえました。
私のすぐ前に座っていた若い男性がすかさず振り向きましました。乗客の中
には「うるさい」と感じる方もいるのではないかと、一瞬ドキッと緊張しました。
私の座っていた位置からは、ちょうど男性の目が見えたのですが、マスクで
顔の下半分が覆われていてもそのまなざしは温かく、不快さはみじんもみら
れませんでした。きっと男性も親子の「クイズ大会」をほほえましく思っていた
のか、飽きちゃったのかな？もう少しで終点だよとでも言っているような、優しい
まなざしでした。

コロナ禍でのマスクをしたままの保育は、幼い子どもの心の育ちに影響が
あるのでは？マスクをしていると表情が見えないので良くないのではない
かなど、保育現場で心配されています。それに対する東京大学大学院教
授の遠藤俊彦先生のコメントが「保育通信7月号」に掲載していました。

『動物と異なると人間の目に白目があるのは、相手に目の動きがわか
るようにするためである。それは相手の思いを汲みとるために必要だから。
口元が笑っていても目が笑っていないければ人はその思いを感じる力がある。幼
い子どもたちは特にその感じ取る力がすぐれているのでごまかせない。また、
赤ちゃんは、声に含まれる感情的な調子がわかるので、マスクを着用しなけ
ればならない状況下でも、そういう意味であまり心配はしない』ということです。

マスク着用を心配する前に、保育者が子どもたちに温かいまなざしや優
しい口調を心がけているかどうか重要なことなのでしょう。

職員間でも半年を振り返る保育のまとめで、マスク着用が話題になりました。
感染防止に欠かせないマスクの着用は今後も続くでしょう。そんな状況の
中でも子どもの成長を促すための最大限の努力をしていきたいと思ひます。